



# なつめ 12月号

〈編集・発行〉  
鹿児島市立喜入小学校  
〈発行日〉  
令和3年12月23日

## 大晦日 定めなき世の 定めかな

校長 内村 英人

「大晦日 定めなき世の 定めかな」

元禄時代の浮世草子や人形浄瑠璃の作者であり、俳諧師であった井原西鶴が詠んだ俳句です。「何が起きるか分からない世の中であっても、大晦日は必ず来る。」という意味のようですが、この時代、大晦日に決まって来たのは借金取りだとか。大晦日は決算日だったのですね。

何が起きるか分からないのは現代も同じで、新型コロナウイルスの世界的な蔓延は、それを実感させられました。感染対策やこの事態に急速に進められた GIGA スクール構想等、必ずこうすれば解決するという定まったものがあるわけではない中で、思案しながら走ってきた令和3年も残りわずかとなりました。そして、大晦日は必ず来ます。

不思議なもので、12月31日から1月1日へと日が1日変わるだけのことなのに、私たちは、そこに意味を持たせて節目とする生活をします。他の月では、決してそうではないのに、この時ばかりは、気ぜわしくなり、しみじみとし、気持ちが新たになります。さらには、その雰囲気をもつ言葉を使って生活します。「年の瀬」「年の暮れ」「師走」「大晦日」「行く年」「来る年」「元旦・元日」「松の内」等々。また、互いにこの1年の感謝の思いを伝えたり、相手が新年を健やかに迎えてほしいと祈る気持ちを伝えたりします。

日が1日変わるだけであるのに、そこを節目として物事の区切りをつけるタイミングとする私たちの文化は、とても豊かな精神活動だと思います。

子どもたちは、冬休みに入りますが、1年の節目であることをいっばい感じながら、文化的な生活を送ってほしいと思います。

節目においてすることは、「振り返ること」と「気持ちを新たにすること」でしょう。

振り返るという行為は、自分を物語るといことだと思えます。自分は、どのような成長をとげてきているのか、どのようにして成長することができたのか、そして、何に感謝すべきかを見つめ直すことです。

気持ちを新たにすることは、自分のスタート位置を決めて前を見ることだと思えます。自分の成長度合いを知り、感謝すべき人や事柄が分かれば、スタート位置が決まり、目指すところを定めることができるでしょう。すす払いをし、正月飾りをそなえ、年越しそばを食べながら、また、初日を拝み、お節や雑煮を食べ、お年玉をもらい、書初めをし、初夢を語りながら、行く年・来る年の豊かな精神活動のある冬休みを過ごしてもらいたいと思えます。

定めなき世に右往左往しながらも、何とか2学期を終えることができそうです。

保護者の皆様、地域の皆様には、大変お世話になりました。皆様の御理解と御協力なくしては成り立たない教育活動も多々ありました。子どもたちのために御提供くださったお時間とお力添えに、心より御礼申し上げます。学校生活は大晦日が決算日というわけではありませんが、ひとまず、この1年の感謝を申し上げます。

子どもたちが、事故なく健康に過ごして3学期を迎えることができることを、そして、皆様が、健やかで幸多き新年を迎えられることをお祈りいたします。



追立造園様に、歩行者用待機場所を作  
っていただきました(正門前)。  
ありがとうございました。

抵抗力を高めましょう (十分な睡眠 適度な運動 バランスのとれた食事)